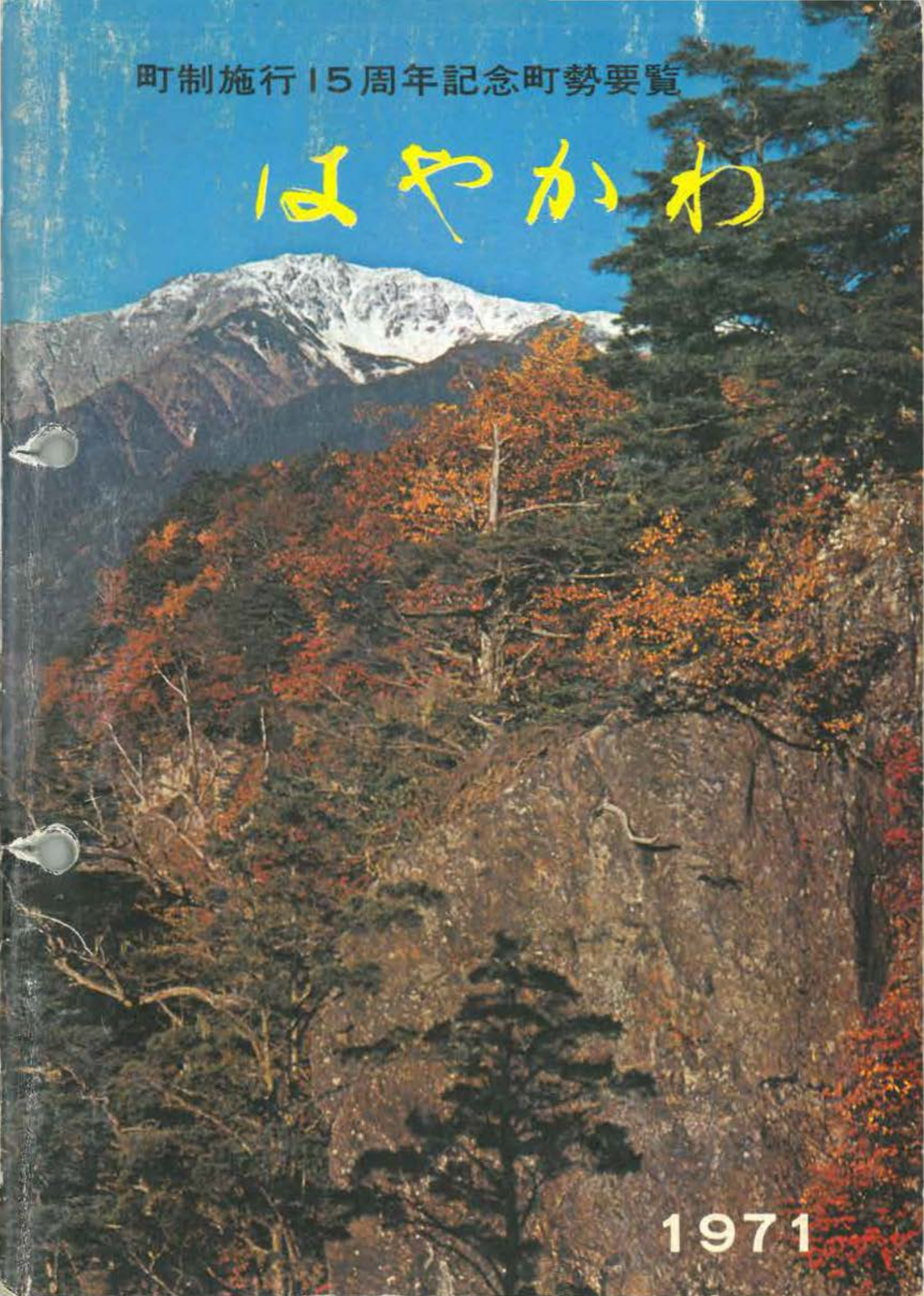
町制施行15周年記念町勢要覧

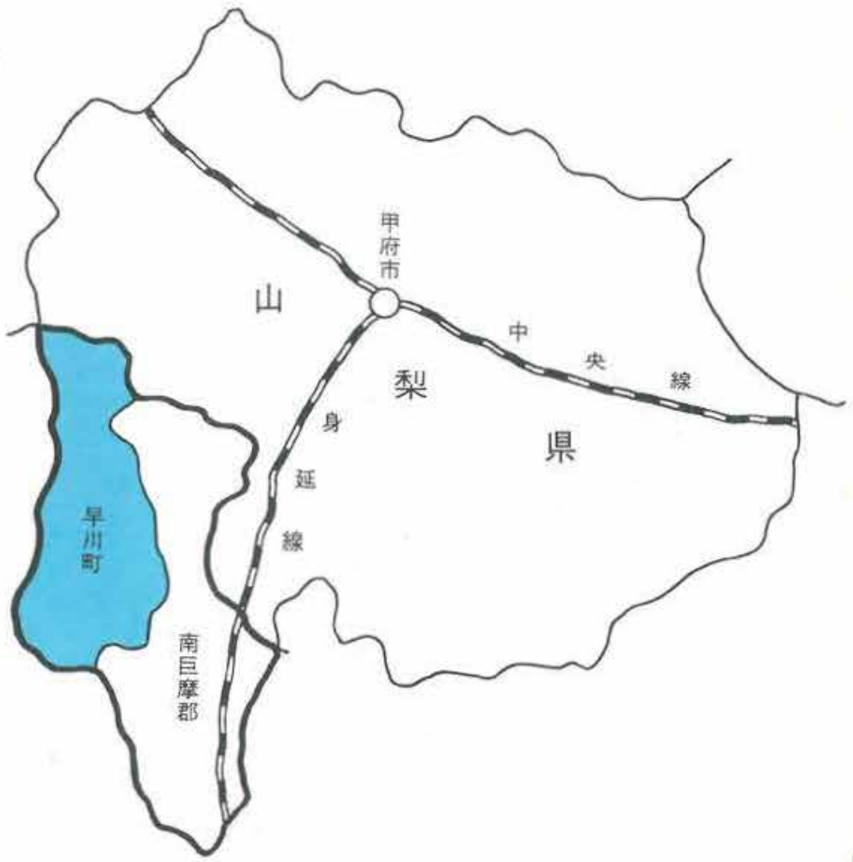
はやかわ



1971

町　章

6つの山は合併した6か村の団結を現わし、川の円は平和・円満を表現したものである。



発刊のことば

早川流域の6か村が合併し、早川町として発足してから今年は15周年を迎えることになりました。回想しますと多難の中にも栄光を目指して町民1人1人が協力と努力を積重ねて来た、とうとい年月でもあった訳であります。

かっては1万を越える人口を数えた、私達の町も今日では5千を割ると言う過疎の町となり、経済文化・教育の面等において、厳しい試練に立たされたのであります。人は苦難にそうぐうすれば強くなり、きゅうすれば創意すると言われますが、私達も過ぎし日の記録に学び、大きな希望を燃やし、互に理解と協力・努力をおしまずにして前進を続けねばなりません。みなさんにお届けする要覧はみなさんの血と汗によるとうとい足跡でもあるのであります。

折角の発刊も何かと不備の点が多かろうと思いますが、多少でも意図をくみとっていただきご活用していただけますれば幸であります。

昭和46年11月　2　日

早川町長　秋山幸一

町　の　木

かつら

カツラ科の「カツラ」(桂)で全町に生育し、その形態はまっすぐに伸長し、材質は軟硬適度であって、古来めでたい木といわれている。

昭和四十三年九月二十日制定

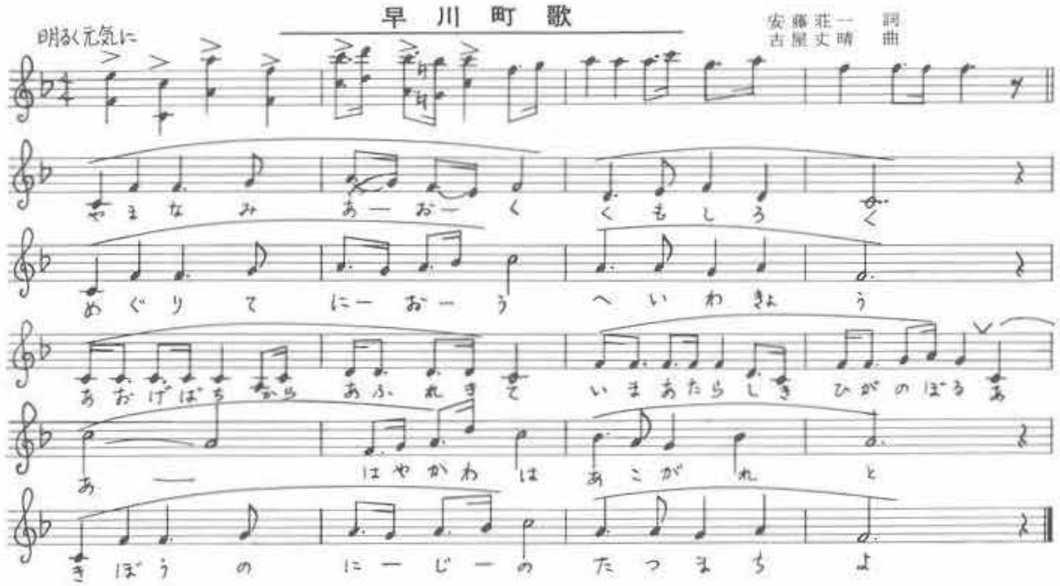
町　の　花

つつじ

ツツジ科の「ミツバツツジ」で、春四月全町の岩場に咲くもので、古来農作業などの季節を告げる花として、住民に親しみ深いものである。

早川町歌

作詞　安藤荘一
作曲　古屋丈晴



(1) 山なみ青く　雲白く
めぐりてにおう　平和郷
仰げば力　あふれきて
いま新しき　陽がのぼる
ああ早川は　あこがれと
希望の虹の　立つ町よ

(2) 流れも清く　せせらぎは
歴史を語り　夢を呼び
世紀の光　発電に
いまよろこびの　灯をともす
ああ早川は　産業と
文化の花の　咲く町よ

(3) 絵巻をつづる　渓谷の
みどりを映す　湖ふかく
絶景ここに　織りなして
湯の香もかおる　別天地
ああ早川は　観光に
世界の友を　呼ぶ町よ

(4) 恵みも深き　早川に
こころを洗い　励み合う
民主と自治の　旗かざし
町政とわに　栄えゆく
ああ早川は　躍進の
歌ごえ高く　わく町よ

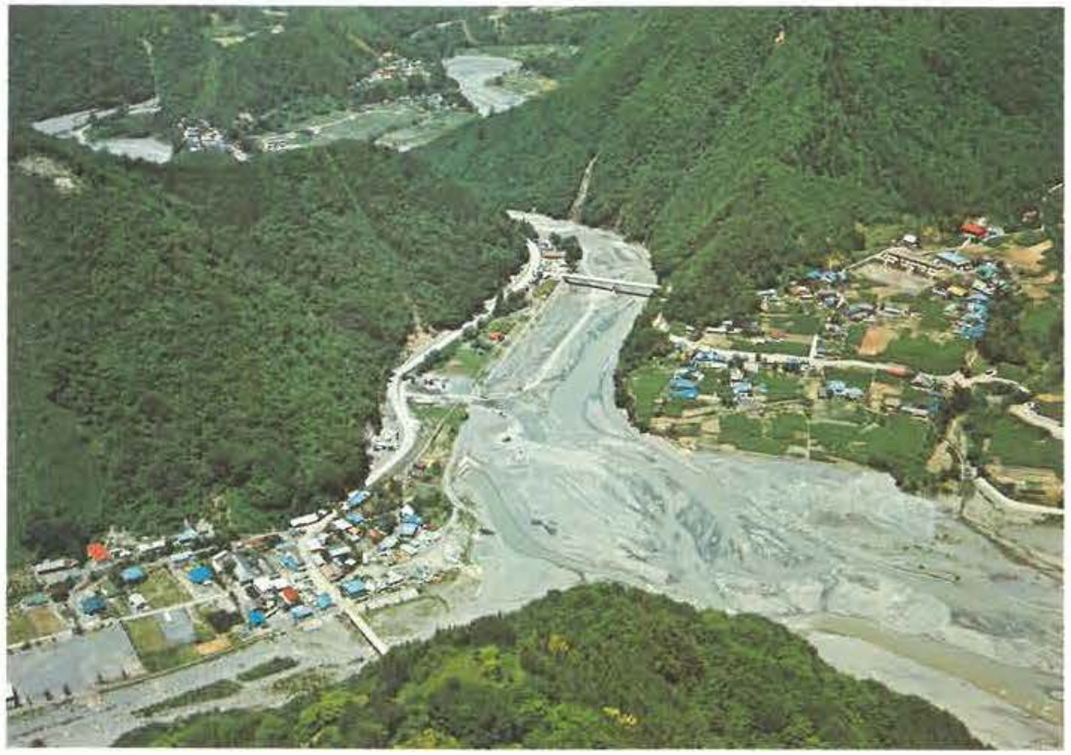
町　長　秋山幸一

議　長　望月今朝治

助　役　望月良雄

収入役　望月重忠

副議長　松田寛正



沿　革　と　概　観

●沿　革

武田信玄からの御朱印

早川流域に、いつ頃から人類が居住したかは不明とされ、しかも居住の裏付けとなる出土遺物も、この流域には存在しないというのが、学界の定説であった。ところが昭和37年3月、早川部落の早川河原に近い丘陵から、縄文後期の土器が発掘されその頃すでにこの流域に、人が住んでいたことが立証された。記録に現れるのは、文永11年身延山を開創した日蓮上人の書簡に、赤沢のことがみえ、明応6年(1497)の異本曾我物語(大石寺本)に、奈良田村が工藤荘司の知行所であったことが書かれている。くだって室町時代には、武田によって、長畑や保に金山が開かれ、奈良田に諸商売諸役免許の御朱印が下附されている。旧幕統治下における村構成を、文化年間(1804年頃)松平定能の編による「甲斐国志」によると19ヶ村であった。これらの村は、明治初年にそれぞれ合併あるいは離反するなど、幾度かの変遷があったが、大正初期には、本建・五箇・硯島・都川・三里・西山村の6ヶ村に統一されていたが、昭和31年9月30日、この6ヶ村を合併して早川町となり現在に至った。

●町　の　概　要

山梨県のほぼ西端に位置している本町は、櫛形山系および白根山系に囲まれた山岳地帯で、竣峰そびえて分水嶺をなし、その主なものは、櫛形山系に丸山・源氏山・倉尾山・御殿山・富士見山等によって、増穂、鰍沢、中富の各町に境し、白根山系には、間の岳(3189m)に連なる農鳥岳・広河内岳・白河内岳・白剝山・笊ヶ岳・布引山・青薙山・七面山等によって、芦安村や静岡県・身延町に接している。この連峰はいずれも2,000m級の山々が連なり、南アルプスの一部を構成し、重厚な山容と景観とともに、豊富な高山動植物が分布しており、昭和39年6月国立公園に指定された。また櫛形山系を中心にした渓谷を含む北部山地は、昭和41年4月県立南アルプス巨摩自然公園に指定を受けた。

河川は両山系の中央部をほぼ北から南に流れる早川を主流に、多くの小支流が注ぎ、渓谷美を形成し、豊富な水量と急峻な地勢は、電源開発に適しすでに10ヵ所の発電所が建設され、その出力は約17万6千キロワットで、山梨県の総発電量41万キロワットの約43パーセントをしめ、1町に10ヵ所の発電所を有することは全国屈指のものである。

女人で始めて七面山へ登った
家康の側室お万の方の像

本町の地質は、早川をほぼ中心として、糸魚川静岡地溝線および数条の断層線が並行し、赤石山地の西部に秩父古生層が分布して山地の主軸をなし、早川沿岸地域に中生層が分布しているといわれているが、その構造は複雑で鉱物・岩石・化石にも多くの種類が見られる。本町の産業形態は、この自然条件に恵まれた林業が主流をなし、広大な山岳地帯は林産物の生産に適し、町経済の基盤をなしている。観光では南アルプスの登山、白鳳渓谷の探勝があり、七面山は信仰の山として知られ、西山温泉・奈良田温泉等が主な観光資源として、利用されている。耕地は平坦地が少なく、急傾斜地の畑地が多いが、特筆すべき農産物はみられない。しかし山岳地帯特有の気象条件を利用した農業地帯として、今後の研究開発に期待がかけられている。

集　落

五箇地区

昭46.8現在

古　屋　世帯17　人口56

薬　袋　世帯35　人口121

文化年間には樽坪村高39石3斗5升戸34口145、千須和村高122石4斗2升戸36口150薬袋村高76石4斗7升戸66口328、塩ノ上村高122石8斗2升戸30口172、笹走村高71石4斗8升戸20口96、の5か村であったが、明治22年7月に合併して五箇村となった。

千須和　世帯37　人口125

笹　走　世帯18　人口46

樽　坪　世帯32　人口94

塩ノ上　世28口75(天久保世6口17)

本建地区

初鹿島(含夏秋・差越)
世帯26　人口92

小　縄　世帯24　人口108

赤　沢　世帯52　人口209

文化年間には、初鹿島村高19石2斗8升戸29口145、小縄高住赤沢村高74石1斗8升戸69口344の2か村になっていたが、明治7年10月に2か村を合併して本建村になり、明治22年には本建村と硯島村の組合村が設立されたが、同44年に組合村を解いている。

左高住・右高住のうち角瀬

高　住　世帯76　人口258

硯島地区

大　島　世帯44　人口174

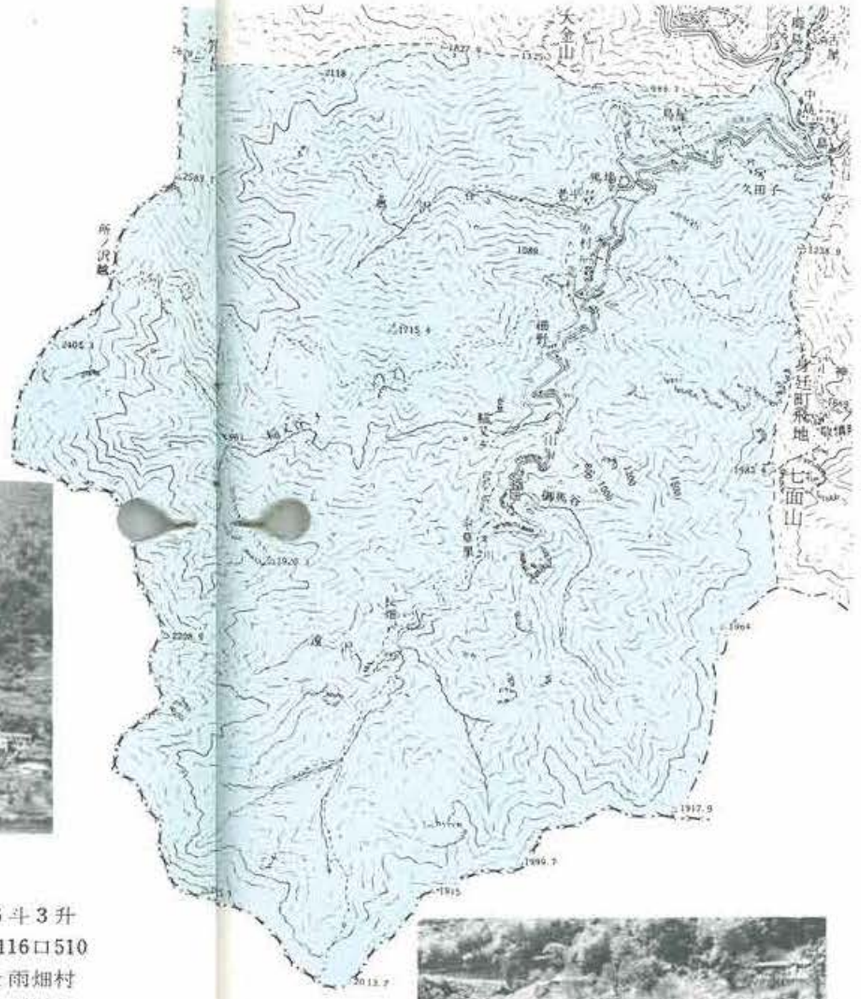
本村(北村・原村)　世帯81　人口321

馬　場　世帯20　人口80

甲斐国志によると、大島村高20石6斗3升戸18口91、雨畑村高100石2斗4升戸116口510となっており、明治7年10月大島村と雨畑村を合して硯島村となった。明治22年に本建村と組合村になったが、44年には組合村を解いている。

かって甲州金山の一つとして栄えた、長畑(室畑)や稲又(細稲)から産する硯石は有名である。

老　平　世帯30　人口132



久田子　世帯13　人口59

細　稲　世帯14　人口52

長畑

室　畑　世帯16　人口77

戸川(戸屋・川根)　世帯11　人口51

都 川 地 区

黒　桂　世帯32　人口116

西之宮　世帯33　人口116

都川地区

京ヶ島村高54石７斗１升戸38口168、草塩村高62石４斗４升戸42口187、保村高52石７斗９升戸63口270、西ノ宮村高29石９斗戸15口88、黒桂村高19石３斗１升戸12口56であったが、明治８年５か村を合併して都川村になり、同17年に三里村と組合村になったが、同24年に組合村を解いている。

保　　世帯80　人口248

京ヶ島　世帯37　人口162

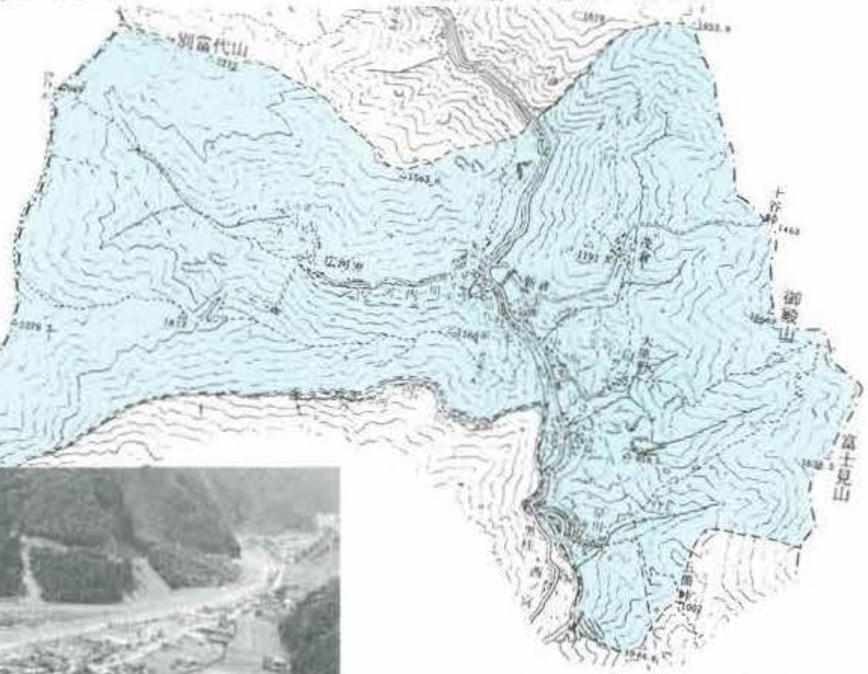
草　塩　世帯46　人口175

柳　島　世帯５　人口27

三 里 地 区

茂　倉　世帯66　人口272

新　倉　世帯101　人口361



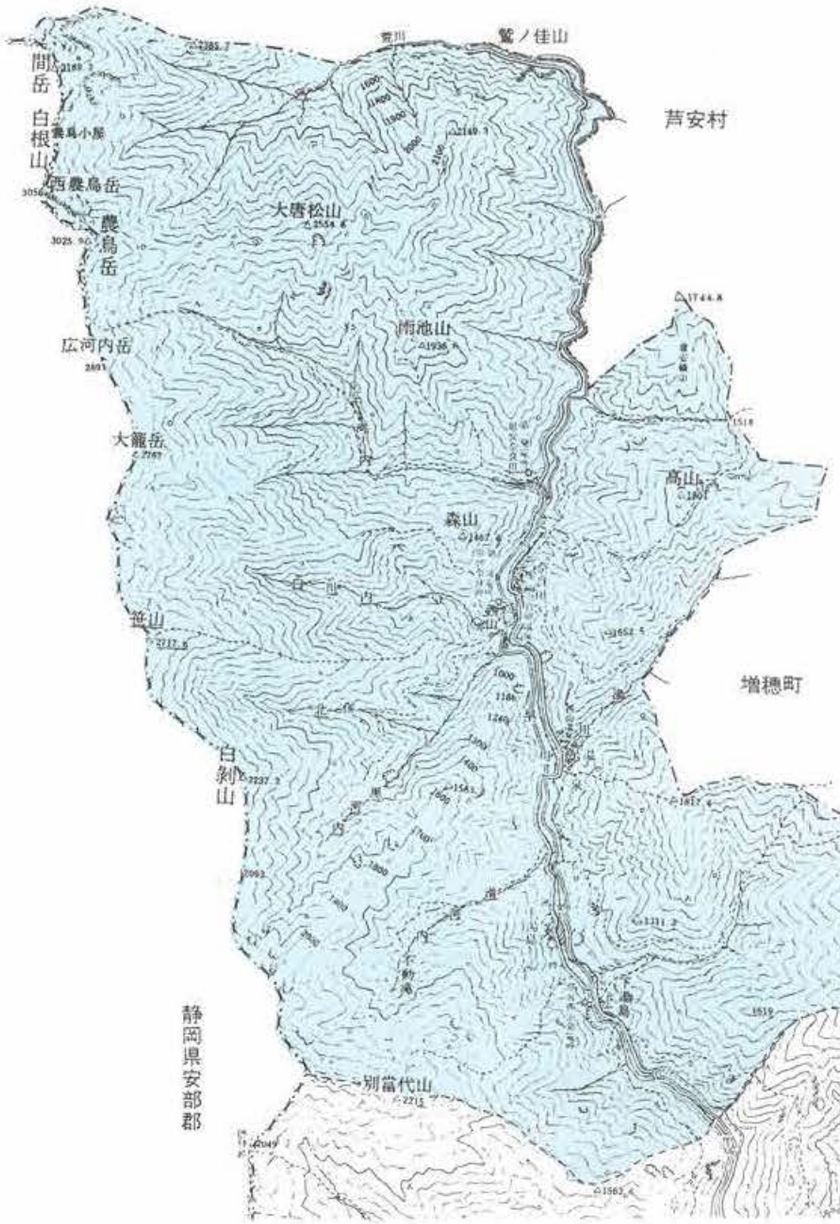
中　州　世帯45　人口157

甲斐国志によると、早川村高64石６斗６升戸46口234、大原野村高41石２斗９升戸58口273、新倉村高96石３斗５升戸105口408であったが、明治５年に合併して三里村になった。

大原野　世帯45　人口139

早　川　世帯48　人口180

西 山 地 区



文化年間には、湯島村高31石８斗９升戸66口291、奈良田村無高戸46口234の２か村であったが、明治22年に両村を合併して奈良田村になり、翌23年に西山村と改称している。

明応６年（1497）の異本曾我物語に、奈良田村が工藤荘司の知行所であったことや、武田信玄から諸商売諸役免許の御朱印が下附されたことなど、特異な部落として知られている。

奈良田　世帯46　人口165

温　泉　世帯22　人口73

上湯島　世帯47　人口158

下湯島　世帯49　人口206

町の面積と人口

地目別面積　　昭45.11現在　課税対象

総面積	種別	宅地	田	畑	山地		原野	雑地	その他
					山林	保安林			
km^2 369.96	面積 ha	38.5	38.8	276.3	3,504.4	430.2	141.3	75.3	2,889.5

地区別人口の変遷

地区＼年次	甲斐国志 文化	国勢調査 大正10年	国勢調査 昭和25年	合併 昭和31年	住民登録 昭和38年	国勢調査 昭和40年	国勢調査 昭和45年	住民登録 昭和46.8
本建	489	712	985	1,012	891	794	680	667
五箇	891	1,195	1,160	1,139	939	750	520	534
硯島	601	1,061	1,144	1,279	1,147	1,176	992	946
都川	769	1,391	1,336	1,325	1,156	980	827	844
三里	915	1,356	1,874	2,006	1,857	1,555	1,176	1,109
西山	525	863	763	1,355	861	927	666	602
工事区域	—	—	—	（所属地区に算入）		383	—	—
合計	4,190	6,578	7,262	8,116	6,851	6,565	4,861	4,702

町政15年の回顧

町政15年のあゆみは、いばらの道であったかもしれませんが、今ふり返ってみると、多くの人たちのご努力がしみじみと感じられます。

町政のあゆみは、きょうもあすも絶ゆみなく将来に向って続きます。さらに発展するための足がかりとして、来し方をもう一度ふり返ってみましょう。

西山村の解村式

現庁舎の開庁式

１５年のあゆみ

昭和３１年

- 早川町役場開庁式（10.1）
- 町長選挙（11.15）
- 奈良田部落までバス開通（11.19）

昭和３２年

- 役場機構改革(課制をしく)（1.7）
- 早川町消防団結成出初式（2.17）
- 県営西山発電所竣工（４月）
- 役場庁舎起工式（6.10）
- 町議会議員選挙（9.20）
- 役場庁舎落成式（11.23）

昭和３３年

- 早川町青少年総合対策審議会発足（2.4）
- 早川町森林組合設立（8.21）

昭和３４年

- 早川南中学校開校（4.1）
- 台風７号（8.14）
- 台風災害復旧に自衛隊急援（8.18）
- 台風15号(伊勢湾台風)　（9.26）

昭和３５年

- 町長選挙選挙会(無投票)　（10.21）
- 奈良田部落全戸移転を完了（12月）

昭和３６年

- 部落町政懇談会を開始（1.5）
- 大原野柿草里火災（1.24）
- 役場機構改革(２室３課)　（4.10）
- 大久保部落大火（4.16）
- 茂倉車道開通式（4.25）
- 大原野車道開通式（5.19）
- 町広報第１号発刊（5.20）
- 消防団ラッパ隊編成（6.1）
- へき地保育所設置（6.1）
- 奈良田林道起工（8.1）
- 町議会議員選挙（9.26）
- 西山中学校竣工式（11.17）
- 町歌制定発表会（11.24）
- 町制施行５周年記念式（11.25）
- 上湯島火災（12.9）

昭和３７年

- 新倉火災（2.4）

役場庁舎

県災害復旧事務所

久保大火

町制5周年記念式

南中学校竣工式

消防ポンプ

- 町内観光協会を町観光協会に統合（2.24）
- 南中学校竣工式（4.21）
- 三里小学校増築竣工式（5.18）
- 県営奈良田発電所竣工式（5.23）
- 町歌の振付発表（9.29）
- 本建小学校竣工式（10.15）
- 消防自動車入魂式（10.15）
- 電源開発道路と野呂川林道完成（10.31）

昭和３８年

- 湯島保育所竣工式（2.6）
- 早川長知島車道開通式（3.26）
- 消防表彰旗披露式（3.27）
- 雨畑林道竣工式（5.1）
- 農産物出荷組合設立総会（7.25）
- 町議会議員補欠選挙（11.15）

昭和３９年

- 千須和保育所竣工式（2.5）
- 町議会議員補欠選挙（2.8）
- 西山小学校奈良田分校を廃止（4.1）
- 奈良田公民館竣工式（4.20）
- 町内戦没者慰霊祭（4.30）
- 茂倉保育所開所式（5.15）
- 南アルプス国立公園指定（6.1）
- 町文化協会設立総会（9.15）
- 町長選挙（10.25）
- ミス早川表彰式（11.11）
- 茂倉林道竣工式（12.4）

昭和４０年

- 給食センター竣工式（7.10）
- 総合社会教育推進の町の指定をうける（７月）
- 中洲プール竣工式（8.12）
- 上湯島道路竣工式（9.13）
- 役場職員組合解組（9.16）
- 台風24号（9.17）
- 町議会議員選挙（9.27）
- 大門沢小屋竣工式（12.22）

昭和４１年

- 室畑の火災、公民館など３棟を焼失（2.11）
- 美しい町づくり全国コンクールで優良地区賞を受賞（３月）
- 南中学校屋体竣工式（3.26）
- 県立南アルプス巨摩自然公園指定をうける(4.1)

青少年の家開所

草塩橋竣工

スクールバス運行

丸山林道竣工

- 白鳳渓谷が全国ドライブ観光地百選に当選（８月）
- 久田子車道竣工式（8.22）
- 林業構造改善事業始る（10月）
- 町立青少年の家を開設（10.22）
- 町制10周年記念式（11.24）

昭和４２年

- 日軽金角瀬発電所竣工式（4.12）
- 役場に観光課を新設（5.1）
- 町立青少年の家開所式（5.24）
- 草塩橋竣工式（6.17）
- 高住公民館竣工式（7.15）
- 奈良田追分全国普及祝賀会（7.19）
- 黒西公民館竣工式（8.28）
- 茂倉道路竣工式（11.1）
- 中洲保育所竣工式（11.13）
- 漁業協同組合拡大統一なる（12.7）
- 大原野公民館竣工式（12.20）
- 消防第６分団ポンプ入魂式（12.23）

昭和４３年

- 都川婦人消防隊結成（1.5）
- 五箇小学校統合記念式（3.26）
- 奈良田部落道路竣工式（3.27）
- スクールバス購入（3.29）
- 本建小・五箇小を統合南小学校発足(4.1)
- 町連合婦人会を解消町婦人会を結成(4.10)
- 失対事業解散式（4.24）
- 林構事業林道完成（5.30）
- 老平公民館竣工式（6.27）
- 青少年のための町民会議を結成（7.15）
- 雨畑第１回湖上祭（8.18）
- 都川町民プール開き（8.24）
- 西山町民プール開き（8.26）
- 消防団服交付式（9.18）
- 明治100年記念式・町花・町木を制定(9.20)
- 伊勢神宮奉納全国民謡大会に奈良田追分出演（10.15）
- 町長選挙（10.20）
- 丸山林道竣工式（11.18）

昭和４４年

- 下湯島公民館竣工式（1.29）
- ＮＨＫ早川テレビ局開局（3.3）
- 同開局記念番組放送（3.23）
- 茂倉分校閉校式（3.31）

NHK早川テレビ局開局

栄代橋竣工

牧水歌碑建立

農集電話開通

三共診療所竣工

- 住民基本台帳制度はじまる（4.1）
- 役場機構改革観光課及町長公室を廃止し企画観光課を設置（4.1）
- 雨畑観光協会発足（5.1）
- 雨畑湖開湖式（5.11）
- 農業委員選挙(無投票)　（7.15）
- 三里中屋体竣工式（9.6）
- 栄代橋竣工式（9.10）
- 町議会議員選挙（9.23）
- 林業構造改善事業完成報告会（11.10）

昭和４５年

- 南小集会室竣工式（3.20）
- 京ヶ島チビッ子広場竣工式（4.4）
- 池大神讃歌発表会（4.28）
- 新助役望月良雄氏就任（5.13）
- 町長期総合計画を策定（6.19）
- 郡下町議会議員ソフトボール大会で町議会チーム優勝（10.16）
- 硯島診療所竣工式（10.20）
- 上湯島公民館竣工式（10.31）
- 若山牧水歌碑除幕式（11.26）
- 奈良田公民館増築竣工式（11.29）
- 全町に地域集団電話開通式（12.10）

昭和４６年

- あすなろう林業研究グループ県第１回グリーン賞を受賞（5.15）
- 夏秋簡易水道竣工式（5.17）
- 三共診療所竣工式（6.23）
- 峡南広域行政圏発足（8.5）
- 硯島小・中学校庭夜間照明施設竣工(8.16)
- 町制施行15周年記念式（11.2）

１９７１年の早川町の姿

事業のあゆみと将来

昭和31年に発足当時の早川町は、電源開発事業を中心にして、たくましい建設事業が進められ、人口も日に月に増加していました。こうして開発が急ピッチで進められたことは、躍進への足がかりにはなったものの、治山治水といった災害を防止するための配慮に欠けた一面もあって、水害などの常習地になって、土地基盤の整備などで後進性をよぎなくする要因にもなりました。

電源開発事業の終了とともに、過疎への道をあゆむことになりますが、山の町として「山の緑と水の青さ」を基調とし第二の天竜を目指して、大自然に取り組む施策を進めてきました。

過疎が進むにつれて、土地基盤の整備特に幹線道路の改良整備こそ急務であるとして、これを重点施策にかかげ、開発と自然保護の調和をはかって、「行ってみたい町」「住んでみたい町」にしようと努力しています。

過去15年間の町の事業をふり返り、事業を推進し協力された多くの人たちに感謝しながら、あすへの希望と発展への足がかりにしていただければ幸いです。

「道・道を良くして……」田辺知事を囲んで

知事を囲んで
（新倉にて）

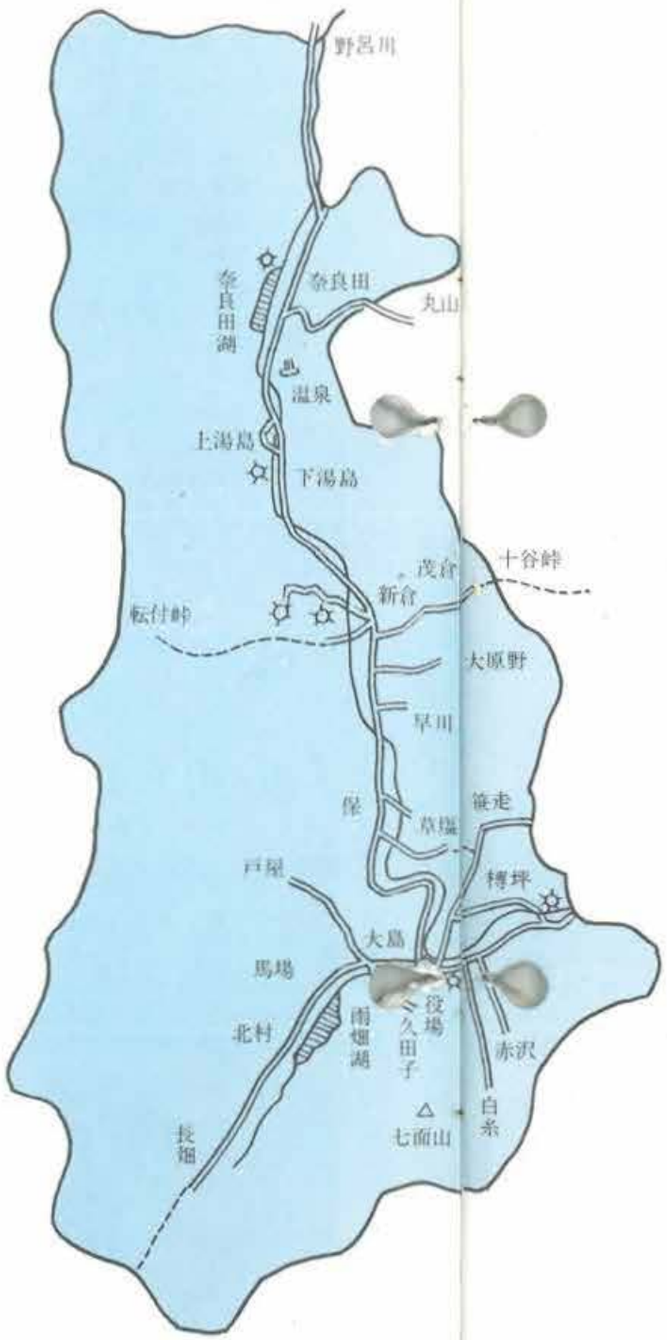
あこがれの道・橋

改良舗装された県道

改良が待たれる県道

雨畑林道

道路現況図



奈良田林道

町道茂倉線

町道笹走線

町道草塩線

町道　白　糸　線

町道　大原野線

町道　赤　沢　線

早川に沿って、県道野呂川～波高島停車場線があり、県林道には、奈良田と増穂町を結ぶ丸山林道、大島から静岡県井川村へ通ずる雨畑林道（工事中）があり、これを基幹路線として全長約320㎞（内車輌通行可能延長57㎞）に及ぶ町道、町林道が接続して本町の道路網を形成している。

この道路の現状は、基幹となる県道をはじめとして、すべての町道が拡幅改良を要するものばかりであり、特に県道の改良舗装は早急に実現を期さなければならないし、町民多年の宿願でもある。

町道　久田子線

町道　戸　屋　線

町道　栄　代　橋

町道　草　塩　橋

県道　早川大橋

県道　栃の木橋

県道　蓬　莱　橋

県道　奈良田橋

産地化をめざす産業

本町の産業は、その立地条件からみて総面積の約90パーセントをしめる山地があり、産業の主体は林業に依存すべきであるが、戦後の乱伐が目立ち、民有林からの素材生産は減少し、植樹による森林造成に意が注がれ、栗・椎茸・なめこなどの産地化をめざしている。

農業は耕地面積の狭あいな上に、寒冷中雨という気象条件もあって、その生産性はきわめて零細で、階層分解や多角経営の余地も少なく、兼業に生活の主体を求めている。

その他の産業にしても、多くの資源を保有していることが予想されていながら立地条件、特に道路の不備と遠距離とに支障されて、会社営・県営による発電企業以外には、導入誘致する企業もみあたらない。

特に最近の過疎化は、これらの悪条件に拍車をかけるもので、労働力の老齢化による協業体制、用地の配置分合など積極的な対応策が必要であり、土地基盤の整備こそ急務とされている。

耕して天に至る　新倉にて

養　蚕（薬袋にて）

養　蚕

農業生産額は畜産も含めて約1億3,200万円で、これは町総生産額の13.4%に過ぎません。

このような零細農家のなかにあって、養蚕収入は全体の50%をしめており、昭和45年度の実績は、養蚕戸数211戸、掃立量1,830箱、収繭量58,890kgとなっています。

養　豚（古屋にて）

茶　園（雨畑にて）

林　　業

町総面積の93%を山林が占めており、その内民有林は19,674haで、全山林の55%に当ります。しかし収入の面では総生産額の25.9%に過ぎず。素材・薪炭の生産は年々減少し、茸類や栗などの特産物が収入を伸ばしています。

このように生産性を向上するために、林業構造改善事業などを実施しており、将来の発展が期待されています。

椎　茸　栽　培

栗

森　　林

苗　　圃

富士電子の内部

ニッパンレジンの工場

砂利採集場

白鳳石（湯島にて）

東電早川第一と新第一発電所

東電田代第二発電所

県営西山発電所

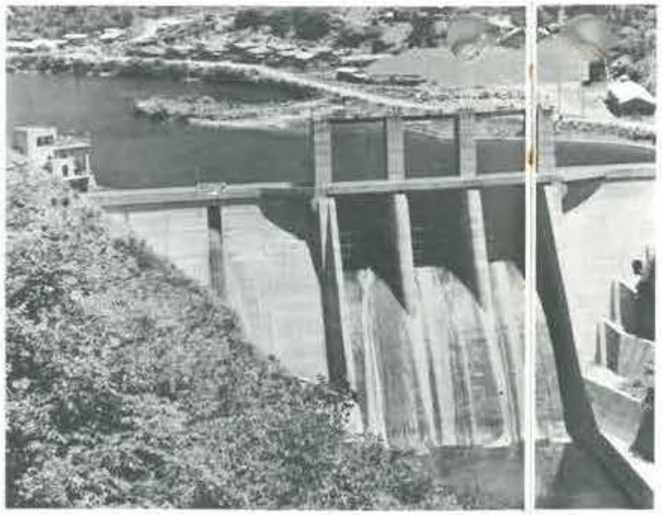
日軽金角瀬発電所

東電新早三

県営奈良田第二発電所

県営奈良田第一発電所

東電田代第一と早川第三発電所



奈良田ダム

経営別水力発電所

昭和46年4月現在

発電所名	経営別	最大出力	発生電力量	最大使用水量	有効落差	着工～竣工
		kw	kw	m³/秒	m	
早川第1発電所	東京電力㈱	25,000	379,200	27.00	227.27	T10 ～T12.7
新早川第1発電所	〃	23,000				S35.5～S36.10
早川第3発電所	〃	7,000	108,000	6.84	199.55	T14.5～S1.12
新早川第3発電所	〃	21,500	216,000	16.53	149.55	S35.5～S36.9
田代川第1発電所	〃	19,000	142,000	7.25	357.42	T15.4～S3.6
〃 第2発電所	〃	22,000	230,400	5.55	494.00	T15.3～S3.1
西山発電所	山梨県営	18,400	104,201	15.00	147.00	S29.1～S32.4
奈良田第1発電所	〃	26,900	137,267	13.00	248.00	S33.1～S36.9
〃 第2発電所	〃	4,400	22,341	15.00	35.57	S33.1～S37.7
角瀬発電所	日本軽金㈱	14,500				S40 ～S41.12

緑の山と青い水

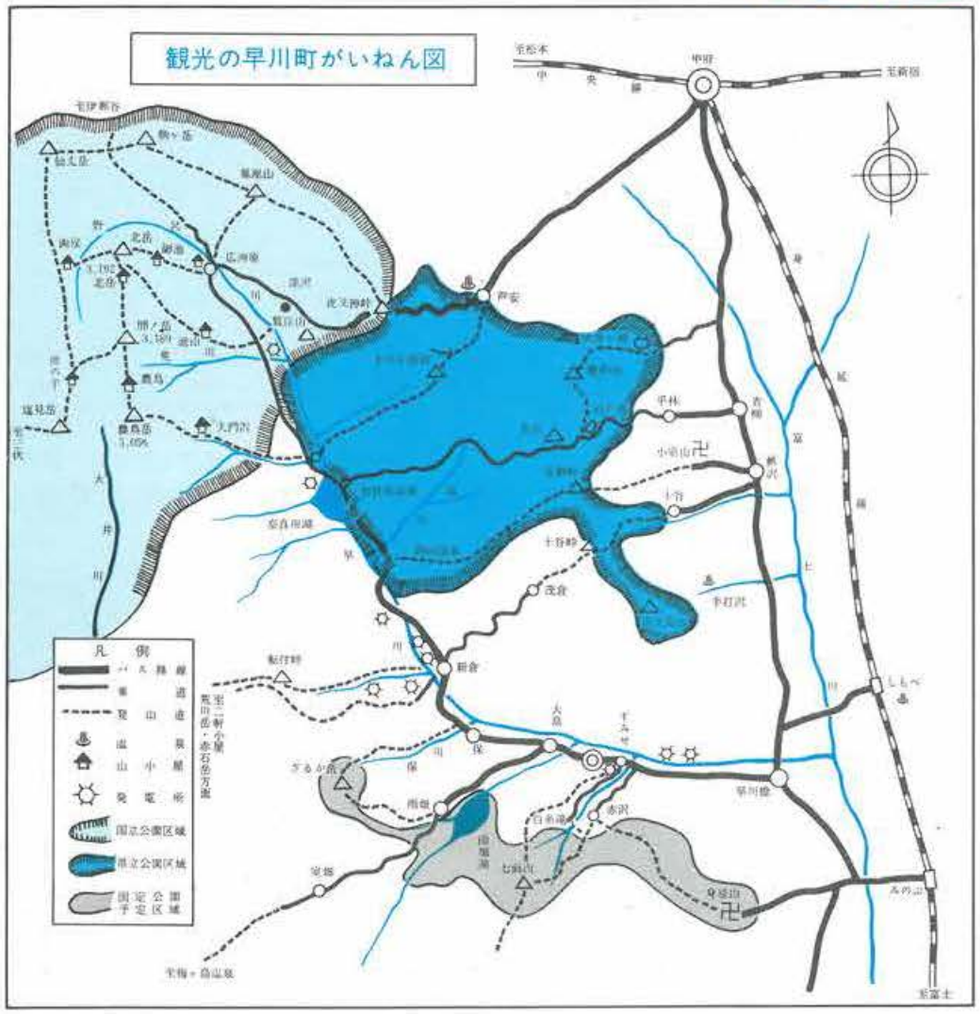
広大な山岳と豊かな川の流れは、全町が自然美の絵巻です。昭和39年、南アルプスが国立公園に指定され、本町区域の白根の二山荒川、広河内などが含まれました。早川や各支流の渓谷など、国立公園から除外された地域にも、すぐれた景観があり、土ノ小屋峠、足馴峠、白鳳渓谷を中心に、昭和41年、南アルプス巨摩県立公園に指定され、北部の山岳地帯全部が、自然公園になりました。

また宗教の山として、信者の登山でにぎわう七面山は、眺望絶好幽すいな霊場として、知られており、ざるが岳とともに、富士川国定公園（假称）に指定を申請しております。

県内でも古い伝統をもつ西山温泉は、45度という適温とともに、胃腸病などに特効があります。最近掘さくによって湧出した奈良田温泉は、南アルプス、白鳳渓谷の拠点として、また民俗の里として探勝するものが多くなりました。そのほか雨畑や保川にも鉱泉が湧出しています。

このように観光資源には恵まれていますが、まだ未開発の分野が多く、道路の整備をはじめとした各施設の整備が望まれています。

伸びゆく観光



山山山山山

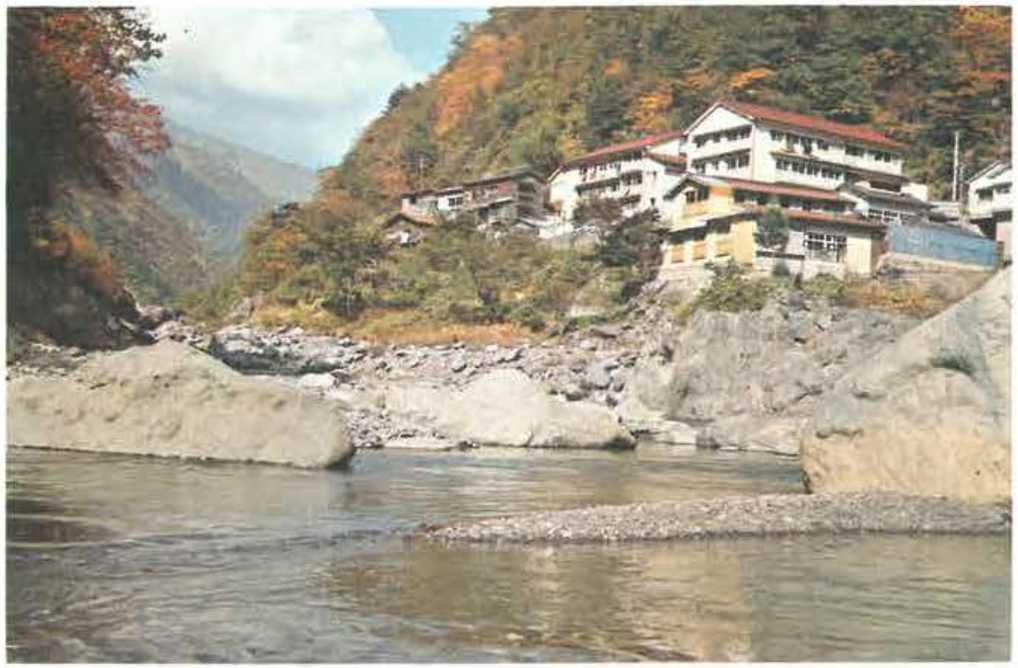
南アルプスの白根山系と、櫛形山系に囲まれた早川町は、山の緑と青い水を基調とした大自然の山岳観光地です。
おもな山岳をみると北岳(3,192m) 農鳥岳(3,056m) 間の岳(3,186m)笊が岳(2,629m) 七面山(1,983m) などは、それぞれ特長をもって、登山者でにぎわっています。

間の岳

北岳（芦安村分）

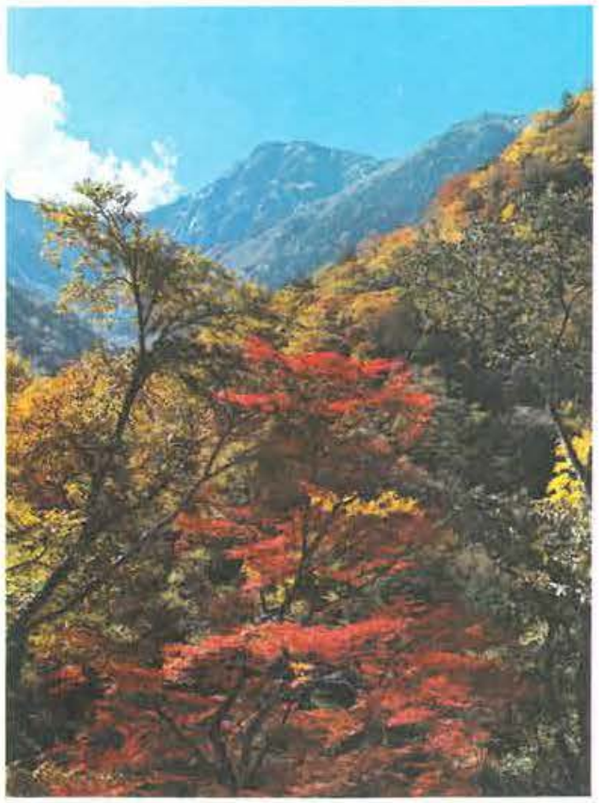
農鳥岳

白鳳渓谷からみる白根三山



西山温泉

七面山からみた朝の富士



白鳳渓谷と北岳

奈良田湖

間　の　岳

雨　畑　湖

あすをつくる教育文化

合併前の旧村を単位として小中学校が設置され4つの分校をもっていましたが、道路網の整備が進むにつれて、分校廃止の方向に動き、現在は小学校5、分校1、中学校5、分校1になり。一部スクールバスを運行しています。

最近の人口減は小中学校の学級編成に大きな影響を及ぼしているので、統廃合による規模の適正化をはからねばなりません。

社会教育は、公民館体制を地区館方式にとり、拠点としていますが過疎化と職業の多様化によって、実際活動は部落が中心であり、体制整備が必要です。

社会体育や文化活動など、立地条件と環境に支配されて、伸び悩みの現状にありますが、基盤整備によって進展をはからなければなりません。

運　動　会（南小にて）

小　学　校

昭和46年5月1日現在

←早川南小学校
昭和37.5.17建築
1,760㎡
6学級　129人

硯島小学校 →
昭和27.12.23建築
1,071㎡
6学級　97人
室畑分校
2学級　14人

←都川小学校
昭和23.5.1建築
1,240㎡
6学級　97人

三里小学校 →
昭和30.9.1建築
3,000㎡
6学級　117人

←西山小学校
昭和28.12.24建築
2,115㎡
6学級　85人

中　学　校

←早川南中学校
昭和37.4.1建築
2,330㎡
3学級 109人

硯島中学校 →
昭和26.8建築
1,197㎡
3学級　51人
室畑分校
1学級　7人

←都川中学校
昭和29.7.23建築
2,863㎡
3学級　57人

三里中学校 →
昭和27.12.19建築
3,074㎡
3学級　85人

←西山中学校
昭和35.3.17建築
1,587㎡
3学級　34人

小中学校その他の施設

給食センター

南小集会室

南中屋体

都川中屋体

三里中屋体

西山小集会室

硯島小・中夜間照明

社会教育

角瀬公民館

赤沢公民館

室畑公民館

黒西公民館

早川公民館

塩島公民館

青少年の家

茂倉公民館

婦人会の踊

中洲公民館

下湯島公民館

上湯島公民館

奈良田公民館

文　化　財

町指定
地蔵菩薩像（常昌寺）

町指定
阿弥陀如来像（常昌寺）

県指定 民俗資料　奈良田の生活用具

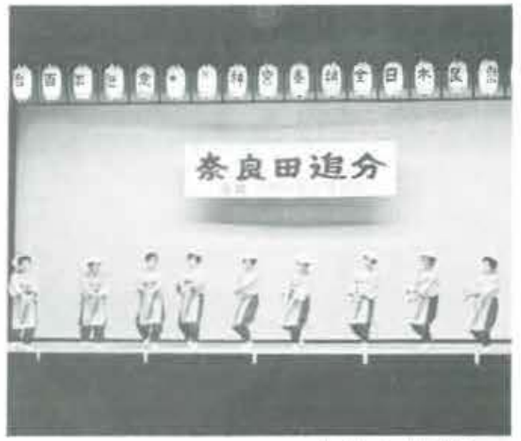
県指定　湯島の大杉

県指定　七面山の大トチノキ

県指定　七面山の大イチイ

郷　土　芸　能

茂倉三番叟



奈良田の民謡踊

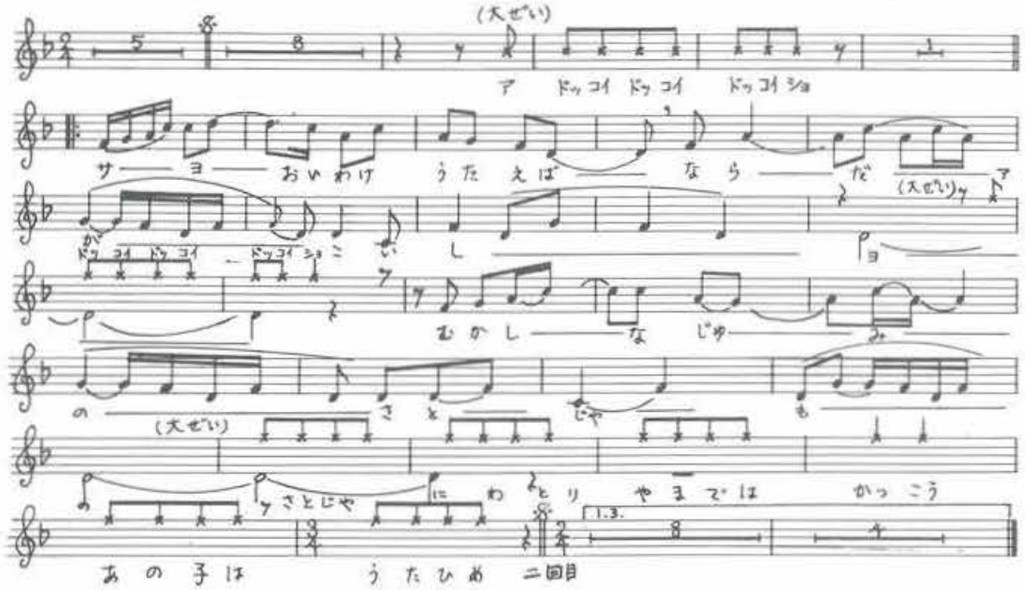
京ヶ島の獅子舞

早川の大念仏

保　の　神　楽

奈良田追分

松尾健司 採譜編曲



奈良田追分

松尾健司 採譜編曲
斎藤京子 唄

一、サーヨー追分歌えば　奈良田が恋し
「ア・ドッコイ ドッコイ ドッコイショ」
昔なじゅみの　里じゃもの
（ハヤシ）「里じゃ　にわとり　山では　かっこう
あの子は　歌ひめ」

二、サーヨー奈良田追分しょうがいばんば
「ア・ドッコイ ドッコイ ドッコイショ」
盆の踊りは　寺の庭
（ハヤシ）「お盆と　正月　いっしょに　来たよな
しゃあせが　いっぱい」

三、サーヨーお月様のよに　しんまるまると
「ア・ドッコイ ドッコイ ドッコイショ」
心持ちたや　持たせたや
（ハヤシ）「あらくに麦刈り　そば農　おやいて
盆には　踊らず」

四、サーヨー桜三月　あやめは五月
「ア・ドッコイ ドッコイ ドッコイショ」
菊は九月が　花盛り
（ハヤシ）「白根のお山じゃ　かのしが　鳴いてた
しぐれて　いるらよ」

池大神讃歌（いけだいじんさんか）

作詞　田沢房子
補作　澤沢正志
作曲　渡辺正巳

一、法の山　七面山の頂に
輝く朝日は　久遠の光
その山を開きし　御魂いまここに
鎮まり給う　池大神

二、七面の　山影映す湖は
清らかに澄み　永遠に静まる
その畔に霊験あらた　幾年を
光明絶えぬ　池大神

三、雨畑の流れ豊かに　せせらぎは
昔を語り　法を呼びかく
題目の太鼓は　渓谷にこだまして
希望を呼ぶや　池大神

硯島音頭

作詞　尾崎四郎
作曲　渡辺正巳

一、ハアー
雨畑川の　鉄橋を
渡れば村の入口の
大島部落にまつらるる　ソレ
天神宮の　梅の花

二、ハアー
七面山の峰づたい
久田子の山に立つ煙
炭焼く人の　たくましく　ソレ
トンネル過ぎて下見原

三、ハアー
富士の雄姿を　眺めつ・
れんめん続く　養蚕の
豊かな部落　戸川こそ　ソレ
平和な村の　象徴なり

四、ハアー
湖水の水も　青々と
馬場の里に　並び立つ
歴史も古き　学び舎は　ソレ
村の文化の　中心地

五、ハアー
奥沢川の水清く
覚岳への入口は
農産物で知られたる　ソレ
茶の香も香る老平

六、ハアー
雨畑硯で　名も高き
本村部落に　緑ありて
幾星霜も　伝わりし　ソレ
池大神は　尊けれ

七、ハアー
四十余丈の滝の音
四季の眺めの　うるわしく
これより谷はせばまりて　ソレ
細野を過ぎて　稲又へ

八、ハアー
多量の黄金　生み出せし
室畑山の　谷底に
残る坑道　数多く　ソレ
遠き昔を　物語る

西山エレジー

米山愛紫 作詞
森　義八郎 作曲

一、ひとり静かに　湯ぶねにしずみ
山と雲とを　眺めて暮らす
いで湯西山　湯川の瀬音
思いちりぢり　うれいなく
あゝたそがれに　胸がいたむよ

二、せめて添うまで　心につめて
恋の琴路は　峠路こえた
いで湯西山　霧立つ山の
月の夜空を　夜鳥飛ぶ
あゝ湯煙に　胸がくもるよ

三、恋の乙女の　血しおで染めた
紅葉あかあか　岩間に燃える
いで湯西山　流れのふちに
夢を映して　水は行く
あゝ夢よ　夢　胸がうずくよ

西山どっこい

根本直枝 作詞
町田嘉章 作曲
岩井半四郎 振付

〽甲斐の山々大古のしじま　雲の上人
忍んでここに　病　癒えたか　その
霊験も　遠き御代から
アア　ドッコイショ　湯の煙
（ハヤシ）寄らでな　こでな
きてくれで
西山湯の町　ダムの里　（以下繰返し）

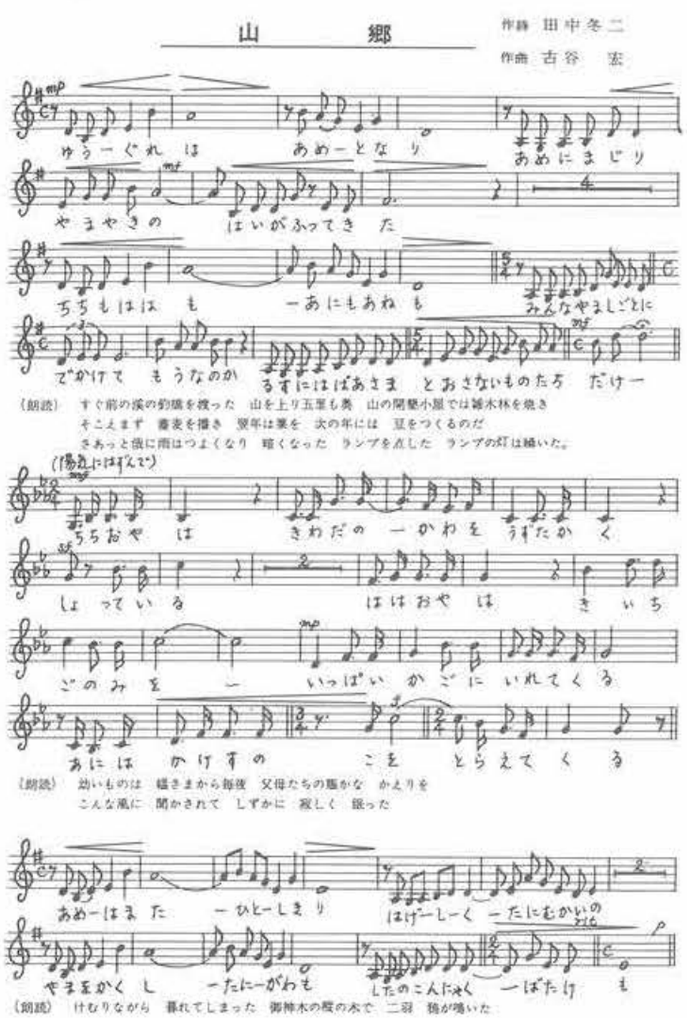
〽私しゃ　西山　深山のつゝじ　谷を
覗いて　あの水鏡　赤く咲いたと
岩間の水よ　主に言伝
アア　ドッコイショ　しておくれ

〽お湯は出るでる　ざぶらん　らんと
御座湯　御殿湯　元湯に　目湯と
四百四病に　利目はあれど
主の浮気は　アアドッコイショ　なぜ癒えぬ

〽逢えば　こうして　あゝして　などと
思う心も　つい後先に　ほいなく別れて
みかへり橋に　主の姿も
アアドッコイショ　おぼろかげ

〽ダムも出来たよ　西山ほとり
水も豊かにあれ　満々と映る月影
木の間を洩れて　主を招くか
アアドッコイショ　船の内

石ぶみ



山梨新十景句碑（西山温泉）

大町桂月歌碑の原本
（農鳥岳頂上）

若山牧水歌碑（羽衣）

田中冬二詩碑（奈良田）

民俗行事と祭り

風　送　り（草塩）

でくころがし（黒柱）

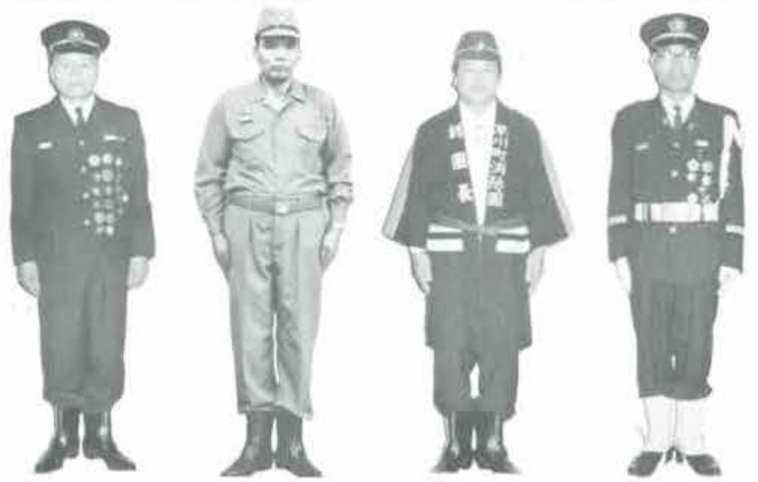
大　念　仏（早川）

天　神　祭（奈良田）

おかたうち（奈良田）

投げたいまつ（下湯島）

平 和 な 町



消防団の制服

警　　察

本建駐在所（角瀬）

都川駐在所（保）

三里駐在所（新倉）

西山駐在所（温泉）

山岳遭難防止対策

健康でしあわせな暮し

生活水準を向上し、生活環境を整備して快適な住みよい地域社会を築くことは町政の重要な柱です。
上下水道の整備、塵かい処理等の完備を進め、し尿処理については、行城行政の内で他町村と共同で実施します。

疾病の予防については、その予防対策を進めながら、町内２つの診療所の整備拡充をはかり、交通安全対策と相まって救急体制を確立するなど、健康でしあわせな暮しができることを期待しています。

成人病検診

歩け歩け大会
（七面山へ）

西山へき地診療所⬇

⬆硯島診療所(大島)
昭和45.10.12竣工式
173.9㎡

三共診療所 ➡
昭和46.6.23竣工
200.82㎡

⬆西山温泉ごみ焼却場

⬆学校給食(南小にて)

保育所

千須和保育所

雨畑保育所

都川保育所

中洲保育所

湯島保育所

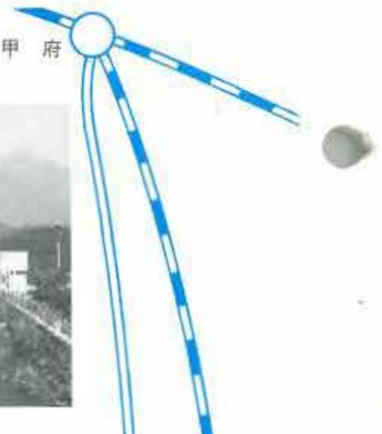
運輸と通信

路　線　バ　ス

本町で運行されている路線バスは、昭和15年５月５日早川橋～三里中学校間の18.1kmを１時間15分４往復が運行され、同17年９月１日から新倉まで延長され、運行区間も同年11月から身延駅～新倉間に変更されました。

昭和25年４月25日から身延駅～雨畑間25.8km１時間35分の２往復が運行されるようになり、同30年10月10日に身延駅～西山温泉間に延長され、さらに31年11月19日から身延駅～奈良田間43.6km２時間42分８往復が新設された。同33年７月１日から甲府～奈良田間に69km３時間10分の急行２往復が増設された。現在では身延駅～広河原間に季節準急バスが運行されているが、過疎問題とともに赤字路線として会社の運営は苦しくなり、回数を減少するなどの処置が講ぜられています。

山交奈良田車庫



通　　信

本建郵便局（角瀬）

地集電話本建地区交換局

硯島郵便局（馬場）

早川郵便局（保）

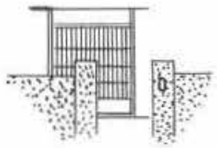
三里郵便局（新倉）

地集早川地区交換局

地集西山地区交換局

西山郵便局（温泉）

町民のくらし

世帯人口  1世帯3.76人	出　生 7.3日に1人	死　亡 5.7日に1人
婚　姻 10.1日に1組	転　入 2.08日に1人	転　出 1日に1.4人
カラーテレビ 3.7世帯に1台	電　話 1.1世帯に1台	乗用車(軽乗用車含む) 3.2世帯に1台
教　員 生徒10.1人に1人	吏　員 町民63人に1人	町予算(46年度) 1人当り65,169円

人と行政

( )の氏名は長

- 町長（秋山幸一）
  - 助役（望月良雄）
    - 総務課（深沢　毅）
      - 庶　務　係ー庶務・議会・選挙・消防・統計
      - 財　政　係ー財政
      - 税　務　係ー税務
    - 住民課（望月正司）
      - 保　健　係ー健康保険
      - 厚　生　係ー国民年金
      - 福　祉　係ー福祉・援護
      - 住　民　係ー戸籍・住民登録
      - 保育所ー保育所
    - 産業開発課（望月照慶）
      - 産　業　係ー産業・農業委員会
      - 振　興　係ー山村振興・林構事業
    - 建設課（望月武平）
      - 事　務　係ー庶務
      - 工　務　係ー工務
    - 企画観光（深沢正志）
      - 企　画　係ー企画・広報
      - 観　光　係ー観光・青少年の家・漁業
    - 三里支所・五箇・硯島・都川・西山各出張所
  - 収入役（望月重忠）
    - 出納室ー出納係ー出納及び決算・物品
- 教育委員会
  - 教育長（望月毅）
  - 事務局
    - 庶務係　庶務・学校教育
    - 指導係　社会教育・青少年対策
    - 給食係　学校給食
- 選挙管理委員会
- 公平委員会
- 産業委員会
- 固定資産評価委員会
- 監査委員

歴代町長

31.11.16～35.11.15
初代
望月清勇

35.11.16～43.11.11
2・3代
高橋寿策

歴代助役

31.12.28～35.11.15
望月忠重

37.12.26～43.11.15
水地　市

歴代収入役

31.12.28～35.12.27
望月金吾

40.6.17～43.11.11
上杉善満

議決機関

●町議会機構

◎は委員長
○は副委員長
( )内の氏名は長

町議会 ― 議長（望月今朝治） ― 副議長（松田寛正）

- 総務常任委員会
  - ◎深沢栄寿・望月茂輝
  - ○辻　昇・望月金三
  - ・望月武雄・望月寛二
- 建設常任委員会
  - ◎松上正幸・高崎　茂
  - ○辻　正知・望月今朝治
  - ・望月　功・辻　一良
- 経済厚生常任委員会
  - ◎望月　保・深沢義諭
  - ○深沢吉清・松田寛正
  - ・千葉金晴・望月嘉造
- 議会事務局（上杉善満）

●歴代議長

1代	2代	3代	4代	5代	6・7代
31.11.25 ～ 32.9.29	32.10.4 ～ 34.11.13	34.11.14 ～ 35.12.23	35.12.23 ～ 36.9.29	36.10.4 ～ 37.9.26	37.9.27 ～ 44.9.29
大野安之助	大村孝司	水地　市	高崎　茂	深沢庄三	深沢栄寿

各種委員

昭和46年9月1日現在　　◎は委員長または会長
○は副委員長または副会長

●監査委員

深沢真一(学経)　望月嘉造(議会)

●公平委員

近藤照重　望月重太郎　湯泉正孝

●固定資産評価審査委員

◎水野喜勇　尾崎一郎　望月　清

●国民健康保険運営協議会委員

◎深沢栄寿　望月今朝治　辻　一良　笠井珪義　望月三郎　近藤嘉吉
月川　浩　松浦敏智　北原マサ子

●選挙管理委員会

◎望月　薫　上田芳雄　望月重信　久保　正

●農業委員会

◎近藤嘉吉　藤原沖直　松永文雄　前川武雄　望月亀男　鈴木徳一
望月武永　望月　博　笹之池義政　早川　茂　中居義武　深沢　一
望月　緑　望月金光　望月行士

●教育委員会

◎水地　市　○石川幸一　前川二郎

●民生委員

◎望月和恵　深沢幹子　荒居さき　高崎　茂　大村孝司　小菅ツタエ
望月国豊　上田芳雄　深沢春一　望月大次郎　辻　晃幸　望月芳一
望月ちる子　田沢範和　望月五四郎　望月金生　鈴木きん　望月益子
望月久子　尾崎博長　望月鉄雄　望月義雄　望月利明　望月義忠
望月　照　近藤ゑ女子　望月定六　上田賢儀　望月七兵衛　望月八良
望月幸平

●社会教育委員

望月一男　雨宮　正　萩原徳好　望月　巌　長谷川空五　深沢松江
望月満江　田沢房子　望月義忠　望月永一　松田寛正　千葉金晴
望月兵作　望月和恵　◎早川忠雄　天野良平　深沢正志　深沢栄幹

●文化財審議員

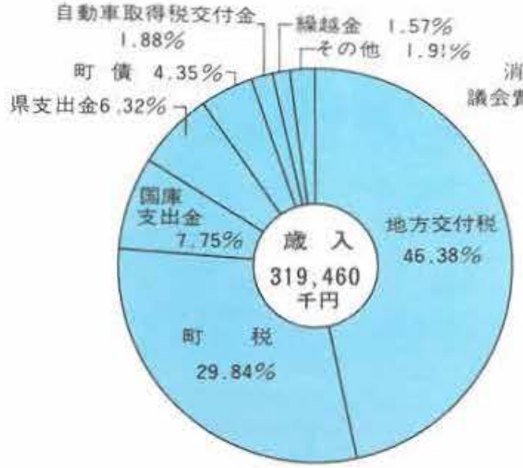
深沢正志　早川忠雄　望月和恵　望月雅光　深沢　豊

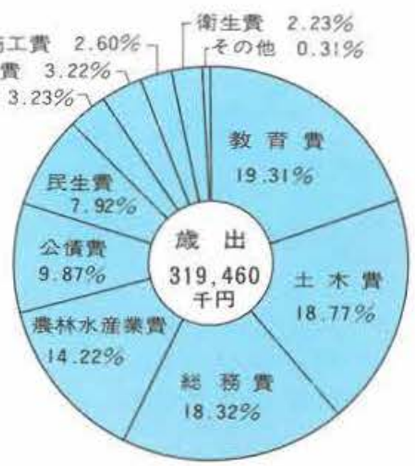
財　政

昭和46年度一般会計歳入歳出予算

（単位千円）

歳入 款	本年度予算額	歳出 款	本年度予算額
(1) 町税	95,325	(1) 議会費	10,320
(2) 自動車取得税交付金	6,000	(2) 総務費	58,508
(3) 地方交付税	148,160	(3) 民生費	25,292
(4) 分担金及び負担金	45	(4) 衛生費	7,125
(5) 使用料及び手数料	2,545	(6) 農林水産業費	45,423
(6) 国庫支出金	24,769	(7) 商工費	8,320
(7) 県支出金	20,205	(8) 土木費	59,962
(8) 財産収入	1	(9) 消防費	10,277
(9) 寄附金	475	(10) 教育費	61,695
(10) 繰入金	925	(12) 公債費	31,533
(11) 繰越金	5,000	(13) 諸支出金	5
(12) 諸収入	2,110	(14) 予備費	1,000
(13) 町債	13,900	(0) 災害復旧費	0
歳入合計	319,460	歳出合計	319,460





年次別決算

△は赤字

年度＼予算 歳入 歳出	一般会計 歳入	一般会計 歳出	一般会計 差引	国民健康保険特別会計 歳入	国民健康保険特別会計 歳出	国民健康保険特別会計 差引
昭和31年度	31,542,940	37,943,345	△6,400,345	4,094,221	3,867,238	226,983
〃 35年度	153,748,921	151,675,075	2,073,846	7,134,211	6,478,968	655,243
〃 38年度	174,514,989	166,250,989	8,264,000	11,061,758	11,049,484	12,274
〃 41年度	279,565,712	262,564,443	17,001,269	22,982,540	22,156,480	826,060
〃 44年度	321,936,000	300,862,000	21,074,000	37,809,000	32,690,000	5,119,000

編集後記

早川町制を施行して以来5年毎に町勢要覧を発行してきましたがことしは15周年で3回目の要覧ということになります。昨年長期総合計画の資料編で、数字を中心にした町勢のあらましを出しているので、この要覧は“目でみる71年の早川町。として、写真を多く数字を少なくしてみました。

ただ、おそまつな写真があったり、紙数のつごうもあって、町勢の姿すべてを掲載することができなかったことを、おわびいたします。ともあれこの要覧が20周年に向ってさらに町勢の前進をはかる参考にしていただければ幸いです。

（企画観光課広報係）

早川町制施行15周年記念
1971年（昭和46年）町勢要覧
昭和46年10月31日印刷
昭和46年11月 2日発行
編集　早川町企画観光課
発行　早川町役場
印刷　サンニチ印刷